
なのはの世界で武力介入

睡眠欲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なのはの世界で武力介入

【Nコード】

N8288W

【作者名】

睡眠欲

【あらすじ】

いつの間にか寝てたら死んで何故か転生させられました。主人公は人間をやめてます。あゝこれからどうしよう。やりたいことやっていいの？イオリア計画を試してみよっかな！？

地球外変異性金属体や悪魔細胞による武力介入（前書き）

あらすじと同じだよん

地球外変異性金属体や悪魔細胞による武力介入

プロローグ

あれゝなんか不思議空間が広がっているゝ

俺の名前は高ノ宮 巧、ガンオタだ。

まあ容姿は中の下ってところか。(本人はそう思っているが実際の中の上、

上の下ってところ)

確か俺は青鬼やってて寝てしまった筈、なんか勝手に死んだから残った家族、父、母、弟、妹よ、ごめん。

もう死んじやったから意味無いかもしんないけど今更だが、ここは夢の中か？

「ってなんじゃこりやああああ」

目の前に青鬼がいる・・・いやだ、助けてくれ、おれはこの年で死ぬのか、せめて死ぬならマシな死に方したかった。化け物に食われて死ぬとか勘弁してくれ

あ、コーラと同じセリフを言ってしまった・・・。なんか生き残りそうなのが！

「あ、気が付いた。どうも神様(笑)です」

・・・青鬼が神様あ？それないわゝ全国にいる青鬼ファンに謝れ！

「ここにきて最初の言葉がそれ！？ないわゝ」

「いやいやいきなり目の前に神様名乗る青鬼のほうがないわ！」

「落ち着いたみたいだね」はあ、なにこれ。珍百景だとおもわない？青鬼と人が会話してる風景、登録なるか？ なるな。

てかここど「ここは生と死の狭間、三途の川みたいな所」

あれゝいつ死んだっけ・・・あ、確か上からピアノが降ってきた夢見てて

潰されたんだでも何故に夢の中？

「僕のミスです」

ふざけんなああ！何軽く命うばってんのおおお！！！！

「ごめんなさうい。確かに君は死にました。しかし転生させてあげます。能力もつけるよ。転生先はこっちが選ぶけど」

「転生しなければどうなるんだよ（呆れ）」

「僕が君を食べる」

「もう死んでからドツテことないか」

「じゃあ、転生しようか。にしても君はおもしろいねえこの状況で普通に話せるのは」

「はあ、もういいです。なら自分の体をELSとDG細胞でつくって下さい。次に触れたものを完全に自分の体でコピーできるようにして下さい。それに加えてガンダムの世界に（時間も決められる）行き来できる能力を下さい。最後にマイケルジャクソンのダンス、声を完璧に真似できるようにして下さい」

「順応能力高いねえうてかマイケルって（笑）それだけでいいの？もつとたのめるよ？」

「いいじゃないですか、それに人の趣味笑わないでください。」

「まあいいか。んじゃ転生さきはつと」

神様が箱の中から一枚の紙を取り出した・・・いい世界でありますように

「リリカルなのはです！」・・・

「え、なのは？ やることきめた。」

「なにすんの？」

「イオリア計画を実行する！」

「ほんじゃがんばれうまあできなくてもできてもどっちでもいいけど」

「は、いきな」あれ、世界が上に上がって・・・！「俺が落ちてんだあ！」

「よい人生を」ふざけんなああ！！！！

そして俺は落ちてった。

地球外変異性金属体や悪魔細胞による武力介入（後書き）

初投稿、頑張った方かな？

今後ペースを決めて投稿していきます！！

え、ここは・・・何処？（前書き）

作「え」どうも睡眠欲です巧の設定忘れてました。いま書きます」
巧18歳、学力は中の上。容姿は黒い髪のリジエネレジエッタ、そのおかげでダチに

振り回され、色々なサークルに振り回されるその影響でなのは、ガ
ンダム等のオタクになる。一人称は俺。主人公機よりも悪役の方が
好みと少し変わっている。

<>は念話、「」は会話、何も無しが思ったことという使い分けです
作巧「ということではのはの世界で武力介入、始まります（＾０＾）
>」

え、ここは・・・何処？

現在俺は何処にいると言うと木星の近くだ。現在の姿は円錐状のELSだ。

何故に木星？俺は今猛烈に抗議したい！地球までいくのに1週間かかるじゃないか！

<あ、ついた？> やっぱELSと言ったら木星だよな。そこ辺りじや衛星に宇宙人と勘違いさせて混乱するからアステロイドベルトでガンダムの世界にいつてね>

あゝメンド、神<せつかくELSに成ったんだからELSらしく移動したら？>

ELSらしく？・・・？（- -;）量子ワープをすれば

<君の体ワープできるほど大きくないからね>

ふざけんな！！徒歩？で行けと？まあ1週間で地球に着くからまあいいか。

にしてもいまは原作のどこ辺り？

<淫獣となのはが会う2か月前だよ>

サンキュ、ンじゃ行つてきまゝす

<いつてらゝ>

現在はアステロイドベルト、ついたあああ¥（^O^）ノ

いやゝ長かった。一人ぼっちで宇宙漂流、気が狂うかと思つたわ！！とりあえず目的地に着いたからまずは何処の世界に行こうかなゝ

よし、OOでELS決戦後に決めた

さてとんじゃ行きますか。

突然めまいがする、あれ、今俺目あんのか？と考えつつ俺の意識は

薄れていった。

気が付くとそこには巨大の花がある！！ああ、これがELS。いや、いいもんみたわ

おお、俺の体の中に知識が流れ込んでくる。

お、ガデラーザはっけーん。ファングが154基ってチート以外の何物でもないだろWWW

ダブルオークアンタもあった！！ほうほう、これが量子ワープか、便利だ。

GNバスターソードにNGNキャノンもみつけ！こりゃあお得だあ！！！奥さん、このチャンス逃がすのは惜しいですよ！！と思いつつ俺はヴェーダへ向かう。

やっぱサブターミナルはすごいねえこれが外宇宙航行母艦・・・巨大宇宙要塞だろ！！！！

これだけで地球に喧嘩ふっかけられるわ！！とりあえず知識収集収集して思うんだけど、イオリア爺さんだけチート！？

あの人、転生オリ主じゃねえの！？てかイオリア、ギレンやテム・レイよりも天才だろ！

お、収集完了。んじゃ帰りますか。

そして俺の意識は同じように薄れていった・・・

あれ、俺って何気に改善点多くね？（前書き）

ありがたいご意見がもらえたので改善していきます
まあ台本形式はやめ、あまりチートではなくなりました

あれ、俺って何気に改善点多くね？

帰ってきましたこの世界！

現在のステータスはOOの知識大体くらい。

この先何があるか分からないのでとりあえず闘いといえばGガン！
時期は第13ガンダムファイト開始時点に、つつわけで行ってきます。

現在の場所・・・ここ何処？辺り一面草原ですねえ。

重要なのは現在の自分の状況！！！今自分は転がっていて止まれな
い！！そして止まっても立てない！

あれゝ宇宙は楽だったのになあ。

あははゝ目の前に風車があるよゝなんかすごく変。1つだけしかない
しドアがない。

んゝこれはなんだねえ、とりあえず収集開始！

へー変形機能があるんだあ、羽に拡散ビーム砲かあ。べんりだん・
・

何で風車に拡散ビーム砲？！なにこれ！？あ、そういえばさつき変
形機能があった筈・・・

こ、こ、これは、ネーデルガンダムかああ！！！！

<説明しよう！ネーデルガンダムとは、胸に巨大な風車をそうびし、
胸部の羽を回し猛烈な竜巻を発生させるのが必殺技のMFだ。決勝
トーナメントまでの11か月を腕部・脚部を収納し、顔を隠した風
車モードでやり過ごした実力はあまりないMFだ！ちなみにデビル
ガンダムとの最終決戦ではネオオランダコロニーからネーデルガン
ダムMK-2からMK-40が発進し、ネーデルガンダム部隊を形
成した。>

ん、説明ごくゝ今の誰？！？！

<おいおい自分を取り込んだもの？を忘れたのかいヤレヤレ>（；
「――」>

いやいや俺人取り込んでねーし、だいたい記憶がn<ヒント君の前
世のそっくりさんだよ>

・・・リジエネ？<正解！>

いつのまに<君がヴェーダを収集しているとき勝手にのりこんだん
だ>

何勝手に乗り込んでんのおおー！！んな事したらテイエリアが探し
にくバックアップを残してあるよ>

用意周到なこつて、まあ取り込もうと思ってたしまあいいか
<じゃ、よろしく頼むよ>こちらこそ。　じゃあ帰ろうk・・・

この世界にきた意味なさずに帰ろうとしてたよ俺！

この世界にきた意味は現在の俺がどこまで通じるかの確認だ
<重力に負けてる時点で世界最弱じゃない？>

ああ、そう、だな・・・帰るか・・・

<まあまあ、がんばろうよ>

ああ、俺頑張るわ・・・

「とりあえず元の世界へ」

そして俺の意識はアステロイドベルトへ・・・

〰〰これからどうしよう（前書き）

今気が付いたんだ！

巧じゃアリシアは生き返らないって事を！

あ、他の転生者に協力という名の支配をすればいいんだ（笑）！

「フッフ、今後の展開、えぐい感じになりそうだね」

おお、リジエネ来てたんだ！

「え、今頃かい？！」

うんb！

「酷っ！」

おお、巧もか！

「もういいわ！話進めて」

へいへい、まあ今後の展開としては使える者はどんどん利用するね

「結構えぐいな、考えてる事」

フハハハハ！ 貧乏性とも呼んでくれ！

「「はぁ・・・」「あ、それとside方式も採用するね！

「「「ということではのはの世界に武力介入、始まります！」」「」

ん〜これからどうしよう

side 巧

さて、これからどうしよう。

他に転生者がいるかもしれないからELSがやったように自分の一部を送り込むか

< なんか地球侵略してそんな会話だねえ >
ある意味俺らの収集は侵略だろ。

< 確かに侵略して知識を得てるよね >

その通りだな、ん〜リジエネ？

< なんだい？ >

俺重過ぎるからさ、体を半分にしてその片方にリジエネの意識移して地球に行ってくんない？

< その方がいいかもね、現在の状況を確認したいし、そうしよう >
んじゃ今から体分けるよ・・・

自分でやるの怖いからリジエネがやってくんない？

< 仕方がないね。わかったじゃあ始めるよ >

サンキュー（^^）

< よし出来た！ >

早っ！！お、完璧にリジエネだほんじゃ行ったらあ

< ちゃんと知識集めといてよ >

了解（。ー。 ） <

< 行ってくるよ >

といってリジエネは量子ワープで地球に向かっていった。

さて、これからどこの世界に行こうかなあ〜

side リジエネ

お、やっと僕の出番かい？

んじゃあまず戸籍を作らないとね

日本よりも進級式のアメリカにしよう。

この精神年齢で小学校からやり直しするなら
大学に直接入った方が早い。

さてと、まあ理工系の学校にしようかな。

（注）現在リジエネの体は小2位です

〃これからどうしよう(後書き)

この話の路線がきまりました！

これからガンガン更新しようかなと思っています

まあよろしくお願いします

地球よ、私は帰ってきたああ！

SIDEリジエネ

現在13時半、昼過ぎといったところだね
今なにをしてるのかって？今入学のための設計図を見せる約束の最中だ。

イオリアがヴェーダを作りあげるまでに描いた設計図の内の1つを見せてるんだけど教授はポカンとした顔をして設計図を見てる。

今見せてるのはさつき説明した中で最初期に描かれた物なんだけど、この時代の科学技術舐めすぎたかなあ・・・

SIDE教授

なんなんだこの設計図を持ってきた子は・・・

「この設計図、君が描いたのかい？」

「ええ、そうですけど」

・・・この設計図通りに製作したら今のコンピューターなんて比じゃない。

この子にはぜひとも大学へ入ってほしい。

将来この子がどう化けるか楽しみだ！

SIDEリジエネ

教授が顔を真剣にし始めた。大学入れるかな？

「教授、僕の設計図。いかがですか？」

「凄すぎるの一言に尽きる。生徒としてより私の助手になって君から私は色々学びたいのだからそれでもいいかい？」

「奇妙な関係ですがわかりました」

SIDE巧

お、リジエネは上手く大学に入れたみたいだ。

なら俺も仕事しなくちゃね。何処の世界にいいのかな。

別に考えているはないしなあ……

あ、そういえばもしELSとかの能力が意味無かった時に備えてマ○ケルの声やらなんやらを完璧にしたんだっけ。

今確認しようにも宇宙で踊るのは気が引けるしなあ。

あ、隕石を取り込んでその中で踊ればいいじゃん。

よし、次にどんなステージにしようかな？

ギミックなら・・・This is itだな。

確かサイズは縦25？×横50？×高さ18？か。

お、手ごろなのみつけ。

後はELS、君に任せた！

おお、中に入るとステージが出来てる……これはいけるな。

なら曲は最初の曲だから「Wanna Be sutartin
Sometin」だな

♪ダンス中♪

「動きがマイケルになってる！」

「ヒーハアアー！」

ただ今主人公が暴走中です。しばらくお待ちください>m
m< (――)

「ハアアアアウ！」

♪ダンス終了♪

「いや、この能力だけでも十分な気がしてきた。ああ、カ・イ・カ・
ン！あ、何一つ仕事してない（汗）」
<こっちは寝てるのに脳量子波がダダ漏れだよ。静かにして>
<あ、ごめん。今そっちは夜か。お休み>
<お休み>

地球よ、私は帰ってきたああ！（後書き）

これからも頑張っぞ！

現在原作2週間前

あゝ現在は戦力の増加中だ。

今リボنز、トリニティ達の機体を再現するデバイスの様な物と体を製作中だ。

まだデバイスの原理すらわかってないからデータしか作ってない。いつの間にリボنز、トリニティ達？と思う方拳手！

答えは、ヴェーダをE.L.Sで作ったら中のデータごと造ってたWWW

意識だけは何もできないので体を作っている。

ヴェーダの中でリボنز、トリニティ達はタイマンでフォンスパーク（データ）と戦っている。

あ、ヒリングが落ちた・・・

なぜそんな事をしてるのか。なぜなら原作でイノベイド達はヴェーダのバックアップが無くなったのが

原因で敗れたので実際？に経験を積んでもらってる。

今の戦力は

ソレスタルビーニング号が1つ・・・終了！ちなみにオリジナルの太陽炉は5つ製作しこれに積んだ。

また、戦闘にはすべて疑似太陽炉Tを使う。しかしエネルギーが有限なのでミノフスキー・イヨネスコ型核反応炉を搭載する。だが粒子の色はオレンジではなく紫だ。E.L.Sが取り込んだからねでもオリジナルはれっきとした緑色さ。

それはさておき、これは何処から持ってきたかというところと近くにあった丁度いい大きさの隕石を2つくっ付けて製作。イメージはア・バオア・クーの指令室がある隕石にリングが付いてるとでも思っ

無論これだけでは無理なのでさっき説明したリボ・トリたちの機体に加え、

ブトレマイオス？改、エウクレイデス？、トリニティ艦をそれぞれ×1、

リジエネ専用機、巧専用機×1　ちなみにエウクレイデス？とはヴエーダのメインターミナルを積み武装を強化している。これが介入チーム。

次にアロウズチーム

バイカル級航宙巡洋艦×20

ナイル級大型航宙戦艦×4

ジンクス？指揮官機×40

ジンクス？×200

ジンクス？×1000

ガデラーザ×4

最後にソレビチーム

セム×1600

GNキャノン×400

GNタンク×400

バイカル級×400

1小隊はセム×4 + GNキャノン×1 + GNタンク×1で構成する。母艦はバイカル級にし、1隻につき2小隊搭載可能。

これら全てが最終生産予定数だ。考えとしてはソレビの戦力は、介入チーム（ガンダム系で構成され

たもの）・アロウズチーム・ソレビチーム（セムなどで構成されたもの）の3タイプで構成する。

ちなみにいずれは、MS・MAはデバイスとして、艦艇は次元航行艦として建造する。

今アステロイドベルトの隕石をかたつぱしからELSに変えて造っている。

ジンクス？は汎用性が高く、安いから一般隊員用にする。

？は小隊長用にし、？×1と？×5で一小隊とし、小隊×5＋ジンクス？指揮官機×1で中隊とする。

中隊×2で大隊、大隊×2で一個師団として

自分で生産予定表を組んでんだが、過剰戦力な気がする。GN-X1機Ⅱガンダム1機分。

単純計算でガンダム×1265機だが？と？はスローネの機能をハードポイントで換装することができるのでもっと柔軟な運用ができるようになってる。我ながら造らせておいて恐ろしいな。

？はそれに加えGNフィールドも張る事ができ、性能としては第4世代と同等だろう。

ちなみに巧専用機は

イノベイタ 専用機に関する技術を使い、リボーンズガンダムと同じインドライブシステムを搭載した、アブラハムガンダム。

アブラハムの理由はリボ・トリ達を作り出したという事でリボーンズが勝手に命名。

自分としてはそんな大げさな名前じゃなくても・・・いいのに。最近ガンダムの名前の由来を知ったので宗教関係多いなと思っている。

リジェネ専用機は

巧専用機と同じくイノベイタ 専用機系の技術を使い、トリアル

フィールドを搭載した

シャムガルガンダム。

このガンダムには特殊装備、トリアルファンクを搭載している。トリアルファンクとは、ファングの武装を外しアクウオス装備のようにトリアルフィールドを

拡大させるための装備だ。このシステムが搭載しているのでヴェーダのバックアップが得られる。

しかしバックアップはハロに任せ本体の戦闘能力向上のためにGNアーマーのような支援装備を設計中。

シャムガルの意味は3番目の裁き人。つまりトリアルフィールドを搭載した三番目のガンダムという意味。

あと2週間で間に合うかな・・・？

現在原作2週間前（後書き）

え、巧の専用機、決まりました！

私としてはイオリア計画の中でイノベーター化とは保険とってます。全人類をイノベーター化ではなく、全人類が相互理解できるようにする計画だと思っ

っています。

なのでイノベーター等の脳量子波は便利な能力位だと考えていますGNタンクについてはリボーンズガンダムオリジンの第三形態として出てくるものをMSへの変形機能を抜いたものだと思ってくださいこの話の中では「対話」がキーワードになるかもしれません。まあ、全人類が相互理解だなんて無理です。重要キャラはイノベーターになるかも（笑）

正直いつて冷や汗が止まらない。

<んゝヴェーダの中にあるレベル1の中が一番ランクが低い情報を提供しただけだよ>

<一様俺らの技術は色々なガンダムの世界の集合体(の予定)だ。未完成でも今の技術だけでも数世代、ヘタすりゃ数百世代先だって事わすれてるだろ!! (怒)>

<でもだよ、少しくらいいいじゃないか ハッハッハ>

<リジエネってこんな感じだったのか…….>

<うん、気が付かなかったのかい? (ー)>

<もついい、諦めた(ー)>

<さて、固まるのはやめにして大学内へいこうか>

大学内を研究者に案内されつつリジエネの話を聞く。

だって、周りから興味の目で見られてるしこの視線はきつい。

某うさ耳博士の開発した女性専用最強兵器を偶然機動してしまった男子も学園内でこんな視線を送られていたのか。

今の俺はリジエネと話しているから無視できるけどあの男子は術を持ってないからなあ……

<ちなみに俺は何しに?>

<君には感情をデータにする研究をしていると彼らにはいっておい
たよ。僕たちのバックアップ方式の

基礎の基礎を見せたらぜひとも呼んで欲しいってことで来てもらったのさ>

<よし、お前、帰ったちよつと高町式O・H A・N A・S H Iが必要だなあ（怒）>

<それは勘弁。で君の設定は私立聖祥大附属小学校の所へデータを集めに行くという設定だよ>

研究者は目的の場所についたらしく、部屋の中に入っていく。

<どこそこ？>

<おいおい、原作知識を忘れたのかい？>

<ああ、もうどんな事件が起こるのかしか覚えてない。>

<て、三つだけじゃないか！？。>

<はつきり言ってそんだけだよハハハ（笑）>

あ、なんか研究者が機械の説明をしだした。まあ俺は聞いてないけど。

<仕方がないね。後でこれを君の中に取り込んでおいて>

<なにこれ、唯のパソコンじゃん>

<ただのじゃあない、君の前世のネットに繋がるパソコンさ！>

< oh、なんてこつたい。こんな便利なのが僕に買えるとも？ ジョン？ >

< 誰がジョンだ（笑）つかジョンって誰？、とまあそこまでにしてこれは偶然できたんだ。量子ワープしようとして見つかりそうになったから慌てて閉じたらそこにあつたんだ。 >

< 偶然って・・・まあ確かに今の俺には便利だなサンキュ。にしても何故小学生のデータ？ >

< 思春期を迎えてない年齢が多いから実験としてまずは人間の精神でまだ未熟で簡単なデータを集めるといふ訳さ。 >

< ふーん了解で何時？ >

< 明日出発。 >

< 前から計画してたのか・・・ >

< まあ頑張れ。 >

< ちなみに何時位からデータを？ >

< 原作開始の二日前 >

< くんじゃ今から俺はどうすんだ？ >

< 僕の家に戻っておいて。場所は〇〇通りの番地だから >

<了解 () <>

ちなみに後で機械について不満な点がありましたか?と聞かれ解答に困ったのは言うまでもない

俺がリジエネに遊ばれてる気がするby巧（後書き）

ああ、やっと原作に触れることができる。

さて、ネタバレですが新しい転生者を何人か出そうと思います。
アイデアが思いついた方はどしどし送ってください。

作巧リジエ「」よろしく願いします>m（——）m<「「「

どうしよう？ふふふ、どうしよう？んふふ（前書き）

これからどうっすかなあ

どっつしよっ？ふふふ、どっつしよっ？んふふ

SIDE 巧

家に着いた後俺が行く小学校のことを調べたら原作メンバーが通うところでした。

あれ、なんか自分の中での計画の進め方が変わっていく・・・リボنزに丸投げしようかな。

しかしそんなことしたら俺の暇が増えるだけなのでやめておく。

だが俺はワーカーホリックではない。面白いことがないと嫌だからだ！

なので現在俺は暇つぶしのためにニコニコ動画で東方および、ボカロをガンガン見てます！

いや、ひっさしぶりのネットだからオラわくわくすっぞ！

ちなみにこの世界のカレンダーを見たら2004年の5月1日だった。この年の12月15日にマイケルの

『The Ultimate Collection』が発売される。この世界のマイケルには異次元からのファンとしては未発表の曲も入れてほしいので援助して、イノベイド用のナノマシンも投与したい。

「はいはい、落ち着く落ちつく。それとマイケル関係の話、いつから関わるの？」

「お、リジエネ。お疲れえ、それについては11月位にしようと思う。」

「あ、そう。それと今日は大半を寝て過ごしたからほとんど何もやってないよ」

「……仕事しろ」

「原作でも僕はあんまし出番なかったからいいじゃん」

「……ホントに仕事無かったのか。せめてヴェーダの情報整理はしてたんでしょ」

「そりゃ出番なくても仕事はあるよ。例えばスイスになったり……」

「おい、違う番組じゃん!？」

「まあまあ落ち着けよ」

「これが落ち」

ピコン

「ん、なんかメールきた。」

「どれどれ。あ、ほんとだ。送信元……神?!」

「なんて書いてある？」

どれどれ……

ちーす、みんなの恐怖、神だよ。

突然だけどさあ、

君にあげた能力のDG細胞、使わないのなら返してよ。

もったいないじゃん。

つか他のガンダムの世界へ行けるんだからいらないでしょ。

その代わりとしてはなんだけど新しい転生者を君のいる、なのはの

コピーの世界へ

送るからいいでしょ。

いいよね、答えは聞いてない！

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「無茶苦茶だなあ、おい！」

「えゝメンド、Gガンの世界また行くのか」

「その代わりに新しく同類？が増えるんだしさあ、面白いことになりそうじゃない？」

「たしかに面白そうだなあ・・・クフフフ」

「じゃあまずは対策でもしておくか。」

SIDE神

おお、超お久ぶりの登場。

今後もくそれはないよ。あまり出さないと前書きでいったかな？>自分で書いたことも忘れたのか・・・

まあそれはいい、じゃあ誰をこっちに送ろうかな？

じゃあこいつで決定！

く巧のときと大して変わりませんく

じゃあ、送るよ。

来世はお幸せにいゝ（＾＾）／

さてと、転生者同士の戦いはどうなるのかなぁフッフ

SIDE巧

今パソコンにリボンス達の訓練が終了との報告が届いたので
肉体はE L Sにするか普通にするか迷っている。

んゝ謀反を起こされたらたまらんし、

かと言って普通にしたら容量の限界が低くなるし。

どうしようかな？

んゝなら、脳だけE L Sにしよう。

これなら肉体に能力はさほどないから安心だ。

このE L S達には侵食はしないように伝えておこう。

にしても生産予定のガデラーザ、見直してみると防御が低いな。

いつそのこと設計見直してデビルガンダムみたいに腰から上にM S
をビームキャノンの付け根から生やしてしまおうかな？・・・無理
があるな。

ならG Nフィールド発生装置を付けるようにすればいいか。

でもE L Sは完全に擬態できないわけではない、それに地球行く前
に何回か練習したおかげで完全に擬態できるようになった訳だしな
ぁ。努力って大事だね！

よし、これから全部のE L Sに擬態するものを完璧に再現できるよ
うに練習させることにしよう。

これなら見た目でE L Sだとわからないしね。

にしても原作介入はどうすっかなぁ

とりあえず介入予定はA . sの最後位かな。

無印は転生者利用してアリシア生き返らればいいし。
頭があまり回らない奴が来ればいいなぁ。

出来るだけ利用して最後に侵食して色々解析すればいいか。

この世に神はいくらいるようにたよります（前書き）

9話目でやっと原作開始。

まあ基本関わらないつもりだけど

この世に神はいなくいるよ、いたようです

SIDE転生者

いきなり何言つてんのこいつ、なんて思わずに聞いてほしい。

俺は死んだ。そしたらさ、青い化け物みたいな神様が「リリなの、世界へ送ってやる。」

だなんていつてきたんだぜ。

楽しみなんだぜ、ハーレムうはうはしたいんだぜ。

で、「願いをかなえてやる」

なんていつてきた。チートきたああ！

よしならばって感じで行ったこと全部かなえてもらった。

ちなみに俺の能力は、

魔力sssoバー、超イケメン、その世界に関する全知識、俺の知っている二次作品全てのアイテムを何時でも取り出せる様にする、なのは達と同じ小学校で同学年、魅力を常人の10倍

はははは、これで俺はオリ主だ。

これから俺は学校に行かなければならない。アリシアも助けて見せるぜ。

これから俺のハーレム構築物語の始まりだ！

SIDE巧

いやいや、これからオリゴレジッタなんだからさあ。

せめてSIDEもそうしようや。

<地の文に突っ込むなよ・・・まあそっちの方がいいか気を取り直して始めようか>

SIDEオリゴ

そうそう、こっちのほうがいいじゃん
さてと、現在私は海鳴市のマンションにいます。

最近リボンス達がヴェーダに所属不明の艦の情報を送っているようです。

何気にヴェーダ「俺なので詳しく見ていると、次元管理局の艦。アースラではないようです。

なんで？何のために？ちなみに監視空域に入った映像があるのか。

何々・・・あ、不明艦がもう一隻のを攻撃した。あ、なんか攻撃された艦から光が散らばっていく。

・・・これってジエルシード？！

へえ、原作はここから始まったのか。

何々現在不明艦の乗組員23名を拘束中？！

まさかELSで包んだのか・・・

明後日からデータ取らなきゃいけないし色々準備が必要なのに

明日の予定がアステロイドベルトで埋まりそう。

頭痛い・・・ハア（；ー）

あゝトップも中間管理も結局下がいて上がいる

SIDE 巧

現在俺はリジエネお得意の量子ワープでソレスタルビーングの中にいます。

リボonzから話を聞いてはいるんだけど頭が痛い。

「聞いているのかい？管理局に対抗する手段があっただけでもみっけもんだよ。それにデータだけだった僕たちの機体が早く建造可能になったんだしさ。まあ僕のはもう造ったけど。」

「はいはい、聞いてる聞いてる。にしても艦自体は解体して侵食すればいいけど乗組員はどうすんのさ。帰すためには記憶消して、偽の記憶を考えて与えなくちゃいけないのに」

「別に帰すだけが手段じゃない。こっちに引き込めば良い」

「じゃあこの辺りを搜索される。」

「ならいつそのこと脳をELSに置き換えてしまえば良い。そうすれば有能なスパイの完成だ。」

「確かにこっちから何人か送るよりも楽だな。しかしだ、まずはあいつらにチャンスを与えてみたい」

「へえ、君がそんなことを言うとは思いませんでしたよ。面白そうだね。じゃあこっちに来て」

リボonzに案内されて着いた場所にはあろうことが男性がいると思

いきや、女性しかいなかった。
しかし異常だ。全員目が死んでいる。

「これは・・・？」

「乗組員達さ。有能だからと上からの命令で配属され仕事をしていたらしい。だが裏の仕事だからという理由で洗脳されてこの有様さ。それにこの女性達は男性よりも身体能力、決断力が高い。その点を上から利用された結果こんな風に廃人同然に成ってしまったんだよ。」

「はあ？あくまでも自分たちの飼いならした手駒を使っているならまだしも」

「上からの命令で？！ふざけるなよ！」

「正義のためにここまでするか！」

「これは人が行うことではない！！」

「リボنز、君のガンダムを少し借りる。」

「どうするつもりだい？トランザムバーストで彼女達の精神にリンクする。」

「僕たちのGN粒子の色は紫。緑ではないよ。それに疑似太陽炉は太陽炉と似て非なるもの、中身が全然違う。」

「その点では大丈夫だ。自分たちの疑似太陽炉の中にTDブランケットを付けて核融合炉をトポロジカルディフェクトに入れ替えたらいい。」

「それって別もんになるよね最初からそうしとけばいいじゃん。」

「ああ、そう。オリジナルがたくさんあったら俺たちが介入してトランザムする度にイノベーターが生まれてしまつて管理局が悪用するだろ。あくまでも自分たちの目的は人類全体の相互理解が目的だ。その目的に至るまでの複数の力の一つでも悪用されたらさらに目的達成から遠ざかるからな。だから疑似にした。」

「分かった。なら早く始めてくれ。さすがにこの僕でもこの光景はクルよ」

「なら中身を入れ替えるぞ。ちなみにリボンス、君のガンダムは？」

「第一格納庫にあるよ」

「あんがと」

確かイノベイド？生成区画からア・バオア・クーというNフィールド側へ行つたところか

ああ、あつた、あつた。

空のケースが何個がある中に1つあつた。

「よし、侵食！」

無論データだけをコピーし自分の体にダウンロードしていく。データは100%ダウンロードした。なら、

「見せてもらおうか、人類を導こうとしたガンダムの力とやらを」これがリボンスガンダムか、なら太陽炉にTDブラケットをつけてつと。

「トランザム！」

両肘の太陽炉から純粹なGN粒子があふれ出す。彼女達の意味が手に取るようにわかるな。

迷っているのもいれば泣いている者もいる。

これは刹那からみれば世界の歪みと言いそうだな。

さてと対話をしますか。

<おーい>

<<<<<<誰?>>>>>>

<ただの人間さ、それよりも君たちはどうしたい?ここの鎖から自由になりたい?>

<<<<<<なりたいわ、でも管理局に帰るなんてごめんよ!>>>>>>

<はもってるね・・・まあいい、なら僕の組織につかないかい?目的は管理局を潰すこと>

<なら私はそれに乗った>

<私も>

<<<<<<私達もよ>>>>>>

<ならあとは僕がこの鎖を引きちぎる番だね、行けフィンファング!。>

<結構大胆ね・・・>

<それほどでも>

<じゃあこの後は現実で話そうかじゃあね>

あゝトップも中間管理も結局下がいて上がいる（後書き）

本日の収穫

次元管理局の技術、

乗組員約20名

「おい、本日のとれたて野菜みたいな感じだな」

「似たようなもんじゃん？」

「にてねえし」

「にしてもTとオリジナルってどう違うの？」

「オリジナルはGN粒子をトポロジカルディフェクトで発生させ、TDプランケットで精製する代物だと作者は思っています。しかし疑似太陽炉は電気などのエネルギーをGN粒子に変えてるから発生させる元が全然違う。だからオリジナルとTの粒子は性質は同じだけど純度が違うと思っています。なのでサーシエスはオリジナルのビーム食らっても治りましたが、ルイスはTのビームに撃たれ再生できなくなってます。つまり、オリジナルの太陽炉に比べ不純物が多く混じるから再生治療の邪魔をする。それが理由です。」

「へーでもさあ、結局同じ性質だから危険なモノだな。」

「正解！外伝のOOFの過去に出てくる、プルトーネの惨劇でシャル・アクステイカの傷の原因。つまり一気に大量のGN粒子を浴びることなどの場合はどちらも同じです。」

明日から原作介入！<遅いな>すんません<it;m> m>

SIDEオリゴ

え〜と彼女達と話し合った結果、

管理局にスパイしに行くようです。これならこっちに有益だし、彼女たちも管理局に一泡吹かせられるとのこと。

この会談が終わってすぐに彼女たちはこちらのスパイとして管理局へ向かっていった。

無論艦内のデータをすべてコピーしたうえでね。

余談だけど自分の外見のせいか人形のように抱きしめられ死ぬかと思っただ。

だってあの胸の中に押し付けられるって息できひんわ。でもそれで赤くなっているのを体の中のELS達がヒューヒュー言ってるって恥ずかしかったのは秘密。やっぱこの体って改善点多くね。

たとえば

<はいはい、結構結構。>

リジエネが、分かりやしたよ。前世ではこんな事がなかったんだし、呟いたっていいじゃん。

<くんなことしてないで明日からデータ取るんだからさっさと寝ろよ>

最近リジエネの言葉がとげとげしい・・・

<誰のせいかわかってる？(怒)>

はい、俺のせいです。いつつ脳量子波ダダ漏れですいません。

<わかったならよろしい。>

しっかしどうすればいいんだ？人間の形したELSだし。

あ、ELSがビームやフィールド張ったみたいに自分の体を人間そのものにすればいいんだ。あ、でも戻れなくなったら大変だから骨

はそのままにして重量は体のなかに疑似太陽炉をつけて
粒子の質量操作能力を使えば・・完成！

にしても管理局と正面衝突するなら負けるかも・・・

認めたくないけど次元を見るくらいの人数はいるからなあ。

内部にアロウズ作ってそこにジンクス？を置いて、

ソレビの量産機はセムを改良したジムを置こう。

何気にガンダム〇〇にジムがないからどうにかならないかなって思
ってたんだよねえ。

まあセムの胸部フェイスを外し〇ガンダムみたいにして手のGNキ
ヤノン外せば出来上がり。

それにコンパクトに変形するからジンクスを置くスペースに2機位
置けると思うし。

よし、そうしよう。

それと、アロウズとソレビのジャケットの動力が同じに見えないよ
うにジンクスには背部ユニットを隠すためにスサノオみたいなコン
デンサーを付ければいいか。

SIDE転生者

あの神のヤロオ、原作前の士郎さんが入院している時期の後に送り
やがった。

これじゃなのはにフラグが建てれないじゃねえか！

まあいい、同じ小学校に入れば俺の魅力で・・フフフフ。

あ、ちなみに俺の名前は桜宮・和人（さくらみや ひと）転生オリ主だぜ！

SIDE神

やった、また出番だ 出番だ

<自重するならOK>

ってゆう事ででてきたよーん

さて、2人が出会うと何が起こるのかなあ楽しみ

明日から原作介入！<遅いな>すみません<（m>（後書

アブラハムガンダム、シャムガルガンダム……全然イメー
ジができない。

なので土曜日か日曜日に〇〇の設定画集を買います！！

なのはの世界で武力介入、始めくすでにだろゝいや、原作介入という意味でだ

SIDEオリゴ

ただ今私は聖祥小学校に向かっています。

いやゝまさかなのはと同じ小学校になるとは……

あ、そろそろついたようです。

え、歩いてたんじゃないのって？

いや、タクシーできましたゝ。だって場所知らないし、わかんないし。

まあここに来るのはこれで最後かも。

また質問？なんで最後かって？

なぜなら宿直室に住む予定だから。

もう時間なんで職員室に行つてきまゝす。

SIDEなのは

やつとなのはの出番なの！

はっ！、今なのはは何を考えていたの？

まあいいの。

それよりも今日、なのはのクラスに新しい人がやつてくるらしいの！
どんな人が楽しみだなあ

SIDE和人

現在俺は教室の中にいる。

俺は転校という形で学校にいます、思っていたのに神は元々存在したという設定で送りやがった。

「それに原作キャラとは全く関係のクラスに。
まあいい。これ位の事で慌てたらだめだ。」

それに俺には常人の10倍の魅力という心強い味方があるしな。
クラスの女子の7割が俺の虜。この調子でフッフフ。

SIDEオリゴ

職員室につきました。

これから担当するクラスがわかります。
問題児がいなきゃいいけど。

「おはようございます。あの、私がデーターをとるクラスは何処
でしょうか？」

「「「「「あなたがオリゴさん!?!?!?!」」」」」

「あ、はい。で、僕がデーターをとるクラスの担任の方は？」

「はい。私です。よろしくお願いします。」

「いえいえこちらこそ。」

「では行きましょうか」

「年下に敬語を使わなくなつて」

「でもこちらからは粗相のないようにと、言われてますので」

「仕事なら仕方がないですね。では行きましょうか。」

「此処です。」

着いた。此処か、にしてもこの持ってきたパソコンすげえな。

これ一台で俺の仕事が全部済む。

「入れますよ？」

「ああ、わかりました。」

教室の中に入ると驚いた。

まさか原作キャラに関わるとは……

まあここで固まっていたら怪しまれる。

「みなさん、初めまして。オリゴ・レジエッタと申します。今日から半年間皆さんの脳波および、感情に関する科学物質がどの条件下でどれ位の量が出るか計らせていただきます。」

「キヤアア！」やら「恰好いい！」の声やら男子の嫉妬の眼差しがこちらに……

にしてもそんなに恰好いいか？

<まあイノベイドって美形だからな>

あ、そう。

まあ大学の時よりましか。

「レジエッタさんは大学の研究で日本に來ています。なるべく邪魔はしないようにね。」

「『『『『『『大学！？』『』『』『』『』』」

「アメリカの学校で進級したから大学にいるよ。」

生徒達何人かは納得した様だ。残りは尊敬と驚きのまなざしで見てくる。

ただ単に、リジエネのつてとヴェーダの知識使っただけだから何にも努力なんてして無いんだけどなあ（汗）

「とりあえず授業を始めますよ。リジエネさんの仕事は授業中もあるんですからね。」

さて、仕事の準備しますか。

なのはの世界で武力介入、始m<すでにだろ>いや、原作介入という意味でだ

なのはをうまく書けているか不安。

アドバイスがある方はどしどし送ってください>m(——)m<

一方、リボ・トリ達は（前書き）

ヴェーダをまだ一回も使っていないので出してみます

一方、リボ・トリ達は

SIDEヴエーダ

現在僕はリボ・トリ達の訓練の設定をしています。

にしても巧。いや、今はオリゴか。

彼にサーシェスとフォンのタッグを相手にさせてと頼まれて作ったのはいいけど・・・いくらなんでもそこまでする？

なんかこのデーターをこれからフォーシェスって呼ぶけどさ、これ使う前にサーシェスのデーターで皆やられてるんだけど・・・

「ヒツ、助けてリボンズ」

「……………ヒリング、君のことは忘れない……………」

なんか扱いが可哀想だなヒリング。まあ遠距離型のガデッサなのに突っ込む方が悪いか。

にしてもこのデーターの元となった人間、リボンズはある意味人間の枠を超えているって言うってただこれ、ある意味っていう言葉、付かないよね。

足で相手のビームサーベル受けてもう片方の足で切るって。

それに最終決戦ではビームをバスターソードで弾いて片足吹き飛んでも

相手を圧倒できる技量って何だよ・・・

OOの世界に行ったときに得た今までのELS達の記憶でもこんな

規格外、数える位の数しかないよ。
こんな人？、よくリボンス扱えたなあ。

あ、残り7人の内のトリニティ三兄弟はネーナがステルスフィールド張ろうとして瞬殺。

それに激怒したミハエルが特攻、ヨハンが援護に回るや否やGNランチャーの射線上でミハエルとつばせり合い。

つばせり合いの最中に展開していたファングをミハエルがフラッグにしたように串刺しにし、

太陽炉ごと切ってヨハンの視界を防ぐ。いったん距離を取ろうとするもバスターソードを投げつけられ胴体に貫通。アルケーが近づき引き抜いた瞬間撃破。

その間たったの1分。

啞然とするリボンス達がこちらに迫るアルケーを迎撃しようとしリボンスは変形しようとするも

キャノンへの変形の最中に大型GNフィンファングを全部切られ爆風で視界が悪い時に頭部切断でコックピットに誘爆。

リヴァイブGNはメガランチャーを撃ったら回避されてランチャーごと真つ二つに・・・ヒリングのようにには成らなかったけど哀れ・・・

デヴァインはGNフィールドを張って防御するも実体剣のバスターブレードでお陀仏。

アニューのガッデスはファング射出したら全部避けられ近接で応戦するもその最中に足のビームサーベルで両肩が胴体とおさらば。

こんなのがイノベーターになったら計画自体が消えるかもしれないなあ。よくこんなのが仲間について計画を完遂できたねりボンス達・・。

「お、皆お疲れえ（^^）／＼」

「ヴェーダア、少しは手加減してくれたらどうだい？（疲）」

「そうよ、そうよ。あんなの勝てる気がしないわよ。（疲）」

「同感ですね。彼に勝てる気がしません。（諦）」

「・・・（泣）」デヴァインが固まってる・・

「なによこれ、仇すら討つ暇ないじゃない！」

「よさないかネーナ、これが今の私たちの実力だ。それに今こうして再開できている訳だ。それだけでも十分だ。」

「でも兄貴イ」

「ミハエル、それよりもお前はバスターソードの扱いを上手くしろ。ただ単に切りかかって行くからやられるんだ。それにだ、すぐカッとなつて突貫するし何かあるたびフアングを使う。もう少し学習しろ。」

「へいへい。兄貴は真面目だな。」

「シャーネエナ、シャーネエナ！」

「「「「「ハロうつさい!!」「「「「「「

今度はフォンのデーターで戦わせてみよう。きっと面白いものが見れそう（笑）

「「「「「ヴェーダア、チョーットOHANASHIが必要ダネエ、」「」「」「」「」

ハハハッ、なんか皆が怖いなあ。

あれ、ジリジリと追い込まれた気がするなあ。

「「「「「ヴェーダア、フフフウ。イタイヨウニハシナイヨオ。」「」「」「」「」

「マアマア、オ、オ、落ち着けて。話せばわk」

「「「「「ミヲモツテシレエエ!!!!」「」「」「」「」

「ギヤアアアアアアアアア!!!!」

その後ヴェーダはフォンとサーシエスに1人で戦わされ手加減する様になったそう、ならなかったそう。

日常の終焉

SIDEオリゴ

現在4時間目の授業中。

なんでこんなにぶっ飛んでんのって言われたら何の変哲もないものだったから。

それに授業中はデーターを採り、休み時間は愛想よく質問を受け答えするだけだから。

そんなもん見てて楽しいか？

<メタ発言はあまり言わないで>

<書いてんのはお前だろ。それに今回は最期まで書いたのにサブタイトル入れ忘れて最初から書く羽目になったのはお前のせいだ>

<今ここでいう事じゃねえだろうが！>

<まあいい。とにかくうつさいじゃあ>

<あ、おいちょтт>

あゝうるさかった。にしても念話しながらデーターを整理できると俺の体って便利だな。

キンコーンカーンコーン、キンコーンカーンコーン

あ、授業終わった。

よし、飯買わないとな。この小学校に購買部はあるのk・・・ないわな。

普通に食べると余分な質量増えちゃうしなあ。

にしてもさつき自分の体を便利とか思ったけどやっぱり世の中それだけじゃないな。

それに教育実習生のように一緒にご飯食べましょうフラグが立つ。もし万が一そのせいで自分の正体がばれたらとんでもないことになる。

なら持ってきて無いから買いに行くって行って逃げる！よし、これなら完璧だな。

お、原作三人組がきた・・・

「あのうオリゴさん、よかったら一緒にご飯食べませんか？」
「やっぱりな。だが、」

「敬語は別にいいよ、同い年だしね。それとその件だけど今日昼食持ってきて無くて今からカロリーメイト買いに行くんだ。ごめんね」
よし、これで行ける！

「オリゴさん、いつもそんなの食べてたんですか？私たちのお母さんが作ったお弁当と一緒に食べればいいじゃないですか。」

「すすか君、いい子だなあ。でもそれを言うとは思わなかった・・・」

「すすかさん達の為にお母さんが作ったものだしそれは流石に悪いよ」

「これならいける！」

にしても男子たちの視線が怖い。

なんか、『羨ましい事されていいなあ、でもそれを断ろうとするなら俺に変われ！それとも俺達へのあてつけかなんかか！、こんちきしょう！！』みたいな感じだ。

これが聖祥三大美女の力か。

確かにその気持ちはわかるけどさあ。俺だつて断る理由があんだよ。

「大丈夫よ、それにむしろ食べさせた方がお母さんはきっと喜ぶわよ。自分の料理の感想が聞けるんだしね。というわけでいいでしょ！」

うん、アリサ。君には負けたよ。いい子が多いなあ（泣）

という訳で連行されてきました屋上。

ベンチに右からずさ、アリサ、俺、なのはの順で座っている。

これは完全に逃げられないな。

で流石にあーんをするのは精神年齢的にハズいので割り箸で頂こう
と思っていた時、

「ねえねえ君達、そんなのより僕と一緒に食べないかい？僕の方が絶対面白いよ。」

……誰？原作でこんな居たっけ？にしても初対面なのに失礼だな。

「いきなり何よ、それに失礼じゃない。初対面の人に。謝りなさいよ！」

お、アリサ言うねえ。

「いきなりなんだい、もういいよ！」

ここまででは別に俺は無視していたがこいつが小さい声で言った言葉が俺に気を引かせた。

「こんな奴原作にいたか?? (小さい声)」

あ、こいつが転生者か。なのはが知らないとなると接点は無いな。にしても転生者ならもう少し精神年齢高いだろ。今の発言で見るとなのはよりも低くね?

まあハーレムだの1対多数だの考えてそうだな。

そして原作宜しく未来の職業の会話へ

「おいおい、どっちもそこまで。」

「あ、はい(. .)」「」

「今回はどっちもどっち。なのは、」

「ふえええ!」

「落ち着け、なのはは謙遜し過ぎ。むしろそういう態度をとるとアリサみたいに嫉妬を招くよ」

「はい(. .)」「」

「アリサ、君は急ぎすぎ。今の君が全てじゃないだろ。これからどんどん伸びていくんだから焦らず今は学力をつけておけば将来やりたい仕事が見つかったときに出来るでしょ。」

「はい(. .)」「」

「にしても三人とも、時計見てる?」

「え、 . . . あ! 授業に遅れちゃう!」

「はいはい、急いで急いで。あと十分だよ。」

「なんで早くに行ってくれないのよ!」

「だって会話の最中だったし・・・」

と言いつつなのは達は教室へ向かっていった。

さてとそんな感じで授業はすべて終わり、皆下校した。

さてとそろそろ帰るか。

宿直室が在るかどうかわからないし、マンションの掃除しなきゃな
と思いつつ職員室へ

「お先に上がらせていただきます。」

「「「「「「「「「「おっさんか?!」「」「」「」「」

次の日

今日がついになのはが魔法と関わる日だ。その時はOガンダムでデーターを採らないとね。

やっぱり一番最初の介入はOガンダムじゃないとね。それにリボンズが見た神を見るかのような目、ぜひとも見てみたい。まあGNフエザー使つと色々ばれそうだから無理だなOrz

まあ仕方がない。その替わりにしっかり原作出発点を見るために準備をしっかりしないとね。

そして今日は4時間目が終わると同時に教室から出て職員室へ向かう。

データーを整理しているとでもばれないだろう。

よもや新兵器のチェックをしているとは思うまい。

昼休みが終わるころに教室へ帰ると目の前にアリサが仁王立ち。

「なんで今日いなかったの？」

「データーを整理していてね、今日はごめんね。」

「な、なら仕方がないわね。許してあげるから、か、か、感謝しなさいよ。」

・・・ツンデレ？んなわけないなあったとしてもネギまのタカミチみたいなもんだろ。

とまあそんな感じで今日は特にすることがないので下校時刻とともに

に帰る。

「あ、オリゴ君、一緒に帰ろうよ。」

「いいよ、僕はここから駅前通りの方にあるマンションだけど君達
は？」

「方向が一緒だね。」

「そうだねえ。そっぴやなのは？」

「私はもう少し先かな。駅前通りに翠屋って言う喫茶店がお父さん
とお母さんが働いてるの。とっても美味しいんだよ。」

「「確かにまた食べに行きたいね」」

「そんなに美味しいんだ。今度行ってみようかな。」

「うん、楽しみにしてるの！」

「あ、ここだよ。じゃあね。」

「「「うん。また明日。」」」

さてと、最上階の自分の部屋に着いたところで今夜が始まりか。
なにも介入がなければいいけど。

天使降臨（前書き）

転生者の名前をすっかり忘れてた・・・

天使降臨

SIDE和人

なんなんだあいつは。

原作にはあんなのいなかったな。

別の転生者か、まあいい。

俺には常人の10倍の魅力がある。それがあから絶対なのは達は落とせるな。

さて、これからなのはを助けて格好良いところ見せてやる！

SIDEオリゴ

今夜から始まるのか。

初めに使うならOガンダムだな。

でも第一世代だからもし、いや絶対に転生者が介入してくるから改良しておかなければ。

まあ改良点としてはこんなもんか

- ・コーン型スラスターを最新のやつ（OOのやつ）に変換、その上に爪状の安全装置っぽいものを付ける
- ・内蔵機器を最新型に取り替え（コンデンサー、センサーなど）
- ・ビームガンにセンサー、取り外し可能コンデンサー（Eパックみたいなもの）を追加し粒子収束率を高めビームライフルに改造
- ・ビームサーベルを二基に追加
- ・ガンダムシールドのフィールド発生器を最新型に替え、余りのスペースにコンデンサー追加そして上から装甲を被せる。
- ・GNバルカンを頭部に組み込む
- ・管理局の次元航行艦から得た非殺傷設定を全武装に組み込む

かなり魔改造したなあ

これなら普通に第3・5世代って名乗ってもいい位のスペックだな。この改良で得られたデータおよび組み込んだ機能を全ガンダムに追加する事を後でヴェーダに推奨しておこう。

さて改良したOガンダムのお披露目だ。

屋上に向かう。

「GNドライブリポース解除、・・・行けるっ！」

キイイイイイン

GNドライブが粒子を発生させる。

「高ノ宮巧、Oガンダム、出撃する！」

SIDEなのは

アリサちゃんにメールを送信したらいきなり頭に昼間の時の声が聞こえてきたの。

それで着替えてこっそりフェレットの所に行ったら黒いもじやもじやが居たの！

「は、あれは！」

「何々、一体何!？」

「来て、くれたの?」

「喋った!？」

黒いもじやもじやがこっちを見ているの!!
に、逃げなきゃ!

「その、何が何だかよく分かんないんだけど一体なんなの?何が起きてるの?」

「君には資質がある。お願い、僕に力を少し貸して？」

「資質？」

私は逃げながら聞く。

「僕はある探し物の為にここではない世界から来ました。」

「でも、僕一人の力では思いを遂げられないかもしれない。だから、迷惑だと分かつてはいるんですが、資質を持った人に協力して欲しくて・・・。」

「お礼はします！必ずします！僕の持つてる力をあなたに使ってほしいんです。」

「僕の力を、魔法の力を！」

「魔法・・・？」

後ろで音がして振り返ったらさっきのもじやもじやが！
ドオオオオン！

「お礼は必ずしますから！」

「お礼とかそんな場合じゃないでしょ、どうすればいいの？！」

「これを！」

ユーノ君が赤いルビーみたいなビー玉を出してきた。綺麗・・・

「暖かい・・・」

「それを手に、目を閉じて、心を澄ませて、僕の言うとおりに繰り返す。」

返して。」

「いい？、いくよ！」

「我、使命を受けし者なり」

「我、使命を受けし者なり」

「契約の元、その力を解き放て」

「えっと、契約の元、その力を解き放て」

「風は空に、星は天に」

「風は空に、星は天に」

「そして、不屈の心は」

「そして、不屈の心は」

「この胸に！」

「この手に魔法を、レイジングハート、セット、アップ！」

「スタンバイレディ、セットアップ」

SIDEオリゴ

「何処だ、何処にいる。高町なのは。（リボンス風）」

いきなり町の中心に近い位置で光が！

あ、あれは！光が天に昇って行く！

「そこか、にしてもGNフェザーよりも派手だな。これでは僕の役割がないよ。GNフェザー！」

自分を中心に紫の翼が広がっていくのが海面に映し出されている・・・

・
リボンス、確かにこれは神にでもなった様な気持ちだよ。
「フフフフ、さて、今は電波障害が起きて自分は記録に残らない。
向かうとしますか。」
近づいていくと分かった。
あれが魔法か・・

SIDE和人
なのはが襲われたな。
そろそろ助けるk・・・なんだあれは！

SIDE市民達
いきなり電話が切れた、あっちの部屋ではテレビが映らなかった、
いやこのマンション自体の電波がおかしい。全員が電気屋に行こう
として目を疑った。
空にある白い点から光る紫色の翼が生えている。

「綺麗・・・」

「・・・なにが起こってるんだ！」

「カメラで撮らなきゃ・・映らない！」

「おい、あれ、近づいて来てないか！？」
一人の男がそういった。確かに近づいてくる！
腰が痠んで動けない。もう何が何だかさっぱりだ
白い点がハッキリと見えてくる・・・あれは人だ！！

「天使・・」
一人がそういった。現代に天使・・科学技術の時代でか、面白いな。

SIDEユーノ

なんなんだあれは。

禍々しくも気高い様な。

！？

「なのは、気を付けて、来たよ！！」

「・・・ふえ！？」

間に合わない！！

ピシイン、ピシイン！

何！？

ピンク色の閃光が化け物を貫いた。

上を見るとそこには翼の主がいた・・・

お久しぶりです！！（前書き）

やっとかけた。

「パソコンの付箋に書いてたら流石にこうなるわ。早く感覚戻せよ。」

「げ、厳しい意見。」

「はい、頑張らさせて頂きます。」

お久しぶりです！！

16wa

SIDEなのは

綺麗な翼が空に生えたと思ったら目の前の思念体が翼の人に撃たれたの。

でも人っていう感じじゃない、機械っぽい見た目の。
角ばった輪郭、目はセンサーみたい。

頭には一对の角。人にアンテナ付けたみたい。

あ、どっかに飛ばうとしている。

「待ってください！」

SIDEオリゴ

目の前に未知のモノがいてこの反応。

対応が早い。子供だから恐怖より興味が強いのか。

大人には成りたくないね、目の前のことを恐怖するだけなら子供の方が優れているかも。

にしても非殺傷設定でこの威力、殺傷設定なら間違いなく絶命してるな。

さて、そろそろかえり

「待ってください！」

えーと、もう帰りたいんですが・

「有り難うございました。」

え、そんだけ？！

絶対あなたは誰見たいなこと聞くと思ってたのに予想外だな。

じゃ、帰りますか。

ついでにコーヒー買いに行こう。出撃する前に何も飲んでなかったし。

SIDEなのは・ユーノ

「帰って行つたね。」

「あ、ああ、そうだね。・・・なのは、思念体を封印しなきゃ!。」

「あ、忘れてた。封印ってどうするの?。」

「封印するのは忌まわしき器、ジュエルシード!。」

「リリカルマジカル、ジュエルシードシリアル???、封印!。」

思念体はレイジングハートから受けた攻撃によりジュエルシードに戻った。

「これがジュエルシードです。それをレイジングハートで触れて。」

レイジングハートを近づけるとジュエルシードが先端の赤い玉に吸い込まれていった。

「ああっ・・・」

すでにさっきの服は影も形もなく、出かけていく時の服になっていた。

「あ、あれ。終わったの??」

「はい、貴女のおかげで。・・・ありがとう。」

バタッ

「ちょっと大丈夫?ねえ」

ツハ

「もしかしたら私、ここにいて、大変アレなのは・・・と、とりあえずごめんなさあーい!。」

SIDE和人

結局一回も介入できなかった。

・・・次にあるのは、なのはとフェイトが会う時か。その時から第三勢力いや、第四勢力として介入しよう。

SIDEオリゴ

さてと、何処かに降りれる場所無いかな？

流石に街中じゃ目立ちすぎるし臨海部辺りか。

着いた着いた、工場の裏側に行つて解除つと。

「あゝ緊張したあ。なんせ初介入だしなあ。これから準備しなくちやいけないな、忙しくなるぞ。」

にしても自販機は？自販機、自販機。

お、あった。やっぱりB〇SSのブラックだな。

ん、隠せて無いって？

いやいや、〇と〇は別もんだよ？！なんの支障もないよ。

ああ、やっぱり美味いわ。そろそろ帰りますか。

今後の予定について色々考えなくちゃなんないし。

蛙が鳴くからかゝえろ。

なんも鳴いてないけど。

お久しぶりです!! (後書き)

シャムガルガンダム、構想すら思いつかない……
機体のギミックや特徴についてアイデアや意見がある方はドシドシ
送ってきて下さい。お願いします>m(____)m<

アブラハムガンダムですが、年末に出せるかもしれません。
何個か案があり検討中なのでと少しか……。も?

変わる日常

SIDEオリゴ

「技術部からの報告です。ご覧になりますか？Y/N」
ん、誰の声かって？パソコンをギレンの〇望みたいにしたんだよ。
Yにしてつと、え〜と何々。

技術部からの報告によると、MS・MAに魔法技術を搭載することがヴェーダ達の会議により決定。

Oガンダムから得られたデータにより実用化の目途が付いたのこと。その結果太陽炉から発生させられるランクを測定した結果、Sランクに相当する。

数分前にデータ送ったのに仕事が早いな。

太陽炉の件に加え、GNタンクは設計を改修され、GNキャノンに変形する機構を組み込まれた。

イメージとしてはリボーンズガンダムオリジンからガンダム形態を取り外した様なものになった。

よかったねGNタンク、ようやく使われるよ。

にしても生産予定の機数を考えると管理局との戦闘は蹂躪いしかならないな。

管理局には一度自分たちを買ってもらってもっと醜くなってもらわないと困る。

管理局には戦力を強化してもらわなければ。これじゃあソレビには一生勝てない。

送り込むならあまりこちら側の技術が使われてないアロウズだな。もともとが独立治安維持部隊だし暗部の彼女たちによると、管理局は管理世界を拡大し過ぎたせいでミッドでの犯罪にてこずっている

らしい。こちらとしては自由に動きたいので最高評議会のような強力な後ろ盾が欲しい。まあこれは彼女たちに調べてもらおう。

気になるのはまだ行動を起こしてない転生者か。

神に何らかの能力はもっている筈。いまだに相手のカードが見えないなら戦うのは良策ではないな。

一度接触する必要がある。グラীবを作って送り込むか。

マイコ については6月辺りに接触しよう。

優先事項が山程残っているからね。

とにかくもう寝よう。明日だ、明日。

全ては明日！

SIDE和人

なんとかしないと俺の立場がない。

常人の10倍の魅力も原作メンバーには効かないしこのスキル、よく見てみると周りの奴らの目が二種類に分かれていることで分かった。

上手いこと話しかけると恋愛系の効果がでるか、カリスマ性になるかランダムになっている。

うまく使えないなこのスキルは。ランダムじゃあ使い勝手が悪い。使えるところは二次元のアイテムを取り出す位だな今の現状では。

体内にある魔力も使い方が分からないし、この世界に関する知識の中にはさっきの白いヤツの情報はなかった。

まあでもそれ以外は分かるからそこそこ使えるくらいだな。

一度接触する必要があるな。これは。

変わる日常（後書き）

ガンダムAGEの最後に艦長がUEの正体をつかんだそうです。
まじで?!（（

第三勢力との折衝（前書き）

いや〜最近ジंकス？のバスターソードをプラ板とかで作ろうとしてるんですが難しいですね。

第三勢力との折衝

SIDEオリゴ

「んん、んんんんんんんんんあああ。ああよく寝た。」

おはよう、ワンダ、モ ニングショット！

<朝からコーヒーのCMとは君はカフェイン中毒かい？>

<お、リジエネお早う。はつきり言ってそうかもしれないなあ。コ

ーヒー飲んだら結構動揺しても落ち着くし。>

<体のスベア、造ろうか？>

<いや、コーヒーがもつと美味く感じる気がするからいい。>

<あ、そう。それと武力介入用の機体、第二世代機も追加することが決定したんで。>

<そう、で？>

<まあ君にはアブルホルの改良案を出してもらいたいんだけど。>

<俺は技術屋じゃねえぞ。それは奴さん達に頼めばいいことじゃん。

>

<彼らから見て君のアイディアは面白いらしい、協力してやってくれ。>

<へいへい、わーったよ。あ、それとさあ、医療面の技術がある程度公開して会社創ってくんない？>

<なんで？>

<マイケルの資金援助の為にね。>

<確かソニー戦争の真っ最中だったね。それで新曲が発表できなかったとか>

<そうそう！ソニーの奴らめ、めにもの見せてやるわ！>

<はいはい、解ったから切るね。>

<え、あ、ちよつと？！>

・・・脳量子波切られた。

仕方がない、リジエネには実際に会ったとき存分に語ってあげなく

ちゃ。

さて、データの収集のために行きますか。

「おはようさん」

「「「あ、おはよう」」」

「今日も元気で宜しい！」

「なんか一気に老けたわねアンタ。」

「老けた?!、そうか、アリサから見て僕は老人か。じゃあそろそろ隠居するか・・・」

「何しよげてんのよ、シャキツとしなさい、シャキツと!」

「まあまあ、アリサちゃん。落ち着いて。」

「なんか何時もと違う気がするよ?」

「なのは?!、すずか?!わ、私はいつもと変わらないわよ?!」

「落ち着けてアリサ、熱でもあるのかい?」

「そそ、そんなわけないでしょ?!」

「おい、アリサ、大丈夫か?(ちよつと思考読んでみるか)」

何々、俺を見て慌ててるのか?まさか恋愛感情なわけないよ・・・前よりもなんか、進んでるう!?(聖徳太子風)

原因は・・・憧れねえ・・・まあ駄目な一面見せたら収まるでしょ。

「にしても昨日は大変だったよ、いきなりパソコンが使えなくなっ
たと思つて修理に出そうと外に出たらオーロラがあつてさあ。(ま
あ自分が起こしたんだけど)」

「あ、それ、私も見た!!」

「僕も!!」

「私も!!」

「え、全員見たんだ!(やっぱりね)」

「そついやなのは、昨夜のオーロラとは別の話、聞いた?」

「ふえ、別の話つて?」

「昨日行った病院に車の事故か何かあったらくて、壁が壊れちゃったんだって・・・」

「あのフェレットが無事か心配で・・・」

「フェレットか・・・、誰か飼ってんの？」

「そうじゃなくて、道で拾ったの。怪我した状態で転がっていて・・・」

「

「へえ、さすがが第一発見者か。」

「いや、見つけたのはなのはちゃんで。」

「考えてみるに病院に運んだ次の日にそこで事故った後が見つかった、という訳だね。大丈夫かな？」

「あ、えーと、その件はね。」

「おーい、授業始まんぞー」

「えー！、じゃあ後でね」

「うんわかった。」

SIDEなのは

「そっか、無事でなのはん家にいるんだ。」

「でもすごい偶然だったねえ。たまたま逃げ出してたあの子と道でばったり出会っなんて。」

「「ねえ!!」」

「あ、あははは。ははは、ははは、はは（嘘はついてない、嘘はついてない、ちよつと、ちよこつと真実をばかして言ってるだけ。）」

「「んん？」」

「えつと、それでね、なんだかあの子、飼いフェレットじゃないみたいで当分の間家で預かることにしたんだ。」

「そうなんだ！」

「じゃあ名前付けないとね。もう決めてる？」

「うん、ユーノ君って名前。」

「ユーノ君？」

「そ、ユーノ君」

「へえ」

SIDEオリゴ

一時間目が終わったな。

なのは達はこっちに目が行ってない。今がチャンス！

パソコンを起動し学校の管理システムに侵入、監視カメラの動画をこっちにも流す！

お、いたいた。この前の転生者。

クラスは隣のところか。同時に名簿から同じ人物を探し出す。

こいつか。名前は桜宮和人ねえ。帰りに待ち伏せるか。

つつ訳でキングクリムゾン！！

なのは達は帰った、さて、和人君は何処にいるのか・・・

膨大な魔力を大体の転生者は欲しがるからサーチすればちよろいちよろい！屋上か。

カツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツ

カツカツカツカツカツ着いた。

「桜宮和人君だね。」

こっちに注意を引き付けれたな。上手くやるしかない。

「お前は?!、前に会ったな。」

「そうだね、転生者君。」

「?!お前も転生者か。」

ビンゴ!もし間違ってたかどうかと思うってたんだよなあ、
傍から見ればそんなこと言ってる奴はキチガイと思われるからな。

「そうさ。僕も。」

「四の五の言うより今つぶした方が早そうだな。」

「?!和人は構えてない。・・・こいつ、手練れか？」

「まあ落ち着けよ、君は原作メンバー達は欲しいかい？」

「俺への自慢かぁ?おい!!」

「いいや、そうじゃない。僕にとってそれは眼中に無い。」

「何をしようとしてるんだ？」

「今はまだ話せないね。完全に信用したわけじゃない。もしよかつたらこっちの仲間になってほしい。」

「仲間になれと・・・」

「そう。しかし条件がある。君の能力の利用を許可すること、僕達に協力すること、こちらの人員には手を出さないこと。ただそれだけだ。それさえ守れば後は好きにして構わない。」

「その話、乗った。それと達ってどういうことだ。」

「何人が集まって行動してるのさ。全員僕が強化してる。(ヴェーダが強化してるけど)」

「了解。話は変わるが昨日の光、お前の仕業か？」

「そうさ。僕の住所を覚えておくよ。丁目の の にあるマンシヨンの502号室今度組織に来てほしい。君の能力を把握しておきたい。」

「わかった。今度何時会うんだ？」

「第三話の巨木事件の解決後辺りで。」

「了解。よろしく頼むぜ。」

「こちらこそよろしく頼む。」

「んじゃもう帰るんでさいなら」

「おい、さっきまでの雰囲気はどこに行ったんだよ・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8288w/>

なのはの世界で武力介入

2011年11月12日21時15分発行